



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

おひだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

季刊 Vol. 022

2026 Spring

★CONTENTS

- 01 副院長就任のごあいさつ
- 01 副院長退職のごあいさつ
- 02 呼吸器内科のご紹介
—診断から副作用対策まで、患者さんに寄り添う肺がん治療—
- 02 呼吸器外科のご紹介
—肺がんを治すこと、元気なからだで長生きできること、が目標です—
- 03-04 2026 Da Vinci SP coming soon
- 05 全国4都市 札幌・大阪・沖縄・横浜で同時ライトアップ!&
第5回 合同肺がん教室を開催しました
- 06 学会での発表・受賞のご紹介
- 06 【連載】 はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 07 寄付者ご芳名
- 07 ご寄付のお願い



2026
Spring



副院長就任のごあいさつ

岡見 次郎



このたび、石川淳先生の後任として副院長を拝命いたしました、呼吸器外科の岡見 次郎と申します。

私は、医師 10 年目の 2004 年 10 月、診療主任として旧大阪府立成人病センターに赴任いたしました。

以来、「ひとりでも多くの患者さんに、より良い肺がん手術を」という思いのもと、肺がん外

科診療および臨床研究活動に専念してまいりました。

これからは、副院長として主に地域医療連携などを担当させていただきます。肺がんのみにとどまらず、より多くのがん患者さんに当センターの診療を受ける機会が広がりますよう、地域の先生方との交流を通じて取り組んでまいります。

微力非才の身ではございますが、誠心誠意努めてまいります。どうぞご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

副院長退職のごあいさつ

石川 淳



春暖の候、皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、私事ではございますが、このたび定年を迎え、退職することとなりました。

2008 年の赴任以来、18 年の長きにわたり温かいご支援をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

2017 年の新築移転では、血液内科病棟の完全無菌化を実現し、適切な時期に患者さんに移植医療などを提供できる体制を整えました。多くの血

液内科の先生方から患者さんをご紹介いただいたことに深く感謝しております。

2020 年からは副院長として、多くの医療機関との地域連携に取り組みました。講演会や症例検討会、医療機関訪問などを通じて、地域の先生方や医療・介護に携わる皆さまと交流できたことは、血液内科という領域で仕事をしてきた私にとり新鮮で、学びの多い貴重な経験となりました。ありがとうございました。

今後、血液内科は横田 貴史先生、地域連携は副院長の岡見 次郎先生に託すこととなりますが、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に皆さまのご多幸とご健勝を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

呼吸器内科のご紹介

—診断から副作用対策まで、患者さんに寄り添う肺がん治療—

呼吸器内科は、肺がんをはじめとする胸部悪性腫瘍の診断と治療を担っています。病理・細胞診断科、呼吸器外科、放射線腫瘍科、脳神経外科、整形外科などと連携した「肺がんセンター」体制のもと、各分野の専門医が協働し、科学的根拠（エビデンス）に基づいた患者さん一人ひとりに応じた治療に努めています。

肺がん治療は大きく進歩し、進行期であっても長期生存が期待できる時代となりました。そのため、初期診断の正確さが極めて重要です。当科では各種気管支鏡手技をはじめとする診断技術を用い、精度の高い病理診断や遺伝子診断を行っています。

また、多数の治験を実施するとともに、日本の主要ながん研究グループに所属し、臨床試験にも積極的に参加しています。

さらに、患者さんに寄り添った治療を大切にし、副作用対策にも力を入れています。薬物療法による皮膚障害には皮膚障害マネジメントチーム「SPRASH」※1 が対応し、免疫関連有害事象※2 には多職種による「ICIP」チーム※3 が早期発見・早期介入を行っています。

治療効果と安全性を両立させながら、安心して治療を受けていただける体制を整えています。

※1… 皮膚障害によって本来必要ながん薬物療法が不必要に減量・中止とならないよう支援する多職種チーム

※2… 免疫チェックポイント阻害薬（がん免疫療法薬）によって起こる特有の副作用

※3… 免疫チェックポイント阻害薬（がん免疫療法薬）を安全かつ適切に使用するために結成された多職種チーム

呼吸器外科のご紹介

—肺がんを治すこと、元気なからだで長生きできること、が目標です—

呼吸器外科では、主に肺がん・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍じゅうかくの外科治療を行っています。年間 380～390 件の手術を行っており、その約 70%を原発性肺がんが占めています。

肺がんは、日本で最も死亡数の多いがんです。近年は喫煙者が減少していますが、罹患者数はいまだ減少していません。なかでも大阪府は、都道府県別の肺がん年齢調整死亡率でワースト 6 位となっています。

「肺がんで亡くなる患者さんを減らしたい」と、私たちは日々の診療に取り組んでいます。そのためには、地域の医療機関や検診センターの先生方に、より早期の段階で病気を発見していただき、当科でより良い治療を提供することが最大の鍵だと考えています。

画像で「肺がん疑い」としてご紹介いただいた場合は、当科で詳しく検査させていただきます。当センターが蓄積してきた膨大な手術症例に関するデータと臨床的な経

験値は、他の医療機関では容易にまねのできない貴重な財産です。これらに基づき、肺がんの疑いが低いと判断した場合は経過観察を行い、高いと判断した場合は手術やそのほかの治療を選択して対応します。

大阪および近隣地域の肺がん治療成績向上のため、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



2026 Da Vinci SP coming soon



Da Vinci SP は、頭頸部がんに対する経口手術のように狭いスペースからのアプローチが必要な手術など、これまでの手術支援ロボットでは対応できなかった症例にも対応できます。

また、術式によっては、従来のロボット支援手術よりさらに低侵襲^{ていしんしゅう}で、整容性（傷跡が目立ちにくい）に優れています。

低侵襲…手術や検査、治療による痛み・出血・傷の大きさ・回復までの時間を減らすなど、体への負担ができるだけ少ないこと



新たに単孔式ロボット「Da Vinci SP」を導入 手術支援ロボットが5台体制に



Da Vinci SP では、1つの切開創から3本の鉗子^{かんし}と1本のカメラを操作できます。

SP 専用の鉗子^{かんし}は、人の手よりも広い範囲で自然に動かすことができ、体腔内でも柔軟に操作できるよう、エルボーとリストの2つの関節を備えています。

鉗子…刃のないハサミのような形をした器具で、主に手術や治療で組織を挟んだり、止血したり、引っ張ったりするのに使われる金属製医療器具



全国4都市 札幌・大阪・沖縄・横浜で同時ライトアップ！ & 第5回 合同膵がん教室を開催しました



膵がん教室チーム

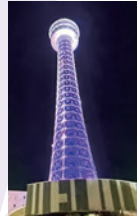
11月20日（木）全国5か所で同時ライトアップを行いました！

11月20日の「世界膵がんデー」に合わせて、全国5か所のランドマークが一斉に紫色にライトアップされました。

当日は天候にも恵まれ、紫に彩られた各地の様子が中継で紹介されました。夜景に美しく映える光景が印象的でした。



札幌テレビ塔



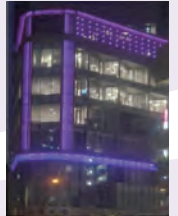
横浜マリンタワー



大阪城



太陽の塔



沖縄琉球新報社

11月22日（土）第5回 合同膵がん教室を開催しました！

この教室は、北海道膵がん教室とパンキャンジャパンとの共同開催で、今年は会場とオンラインを併用したハイブリッド形式としました。

休日にもかかわらず、当センター1階大講堂には22名の患者さんご家族にご来場いただきました。

開会のあいさつは松浦総長が務め、司会は肝胆膵内科の高田医師、進行はパンキャンジャパン北海道支部の田辺事務局長が担当しました。基調講演では、重川医師より膵がん診療の現状と最新の治療について、分かりやすくご講演いただきました。また、「膵がんの早期発見への取り組み」をテーマに、JA尾道総合病院の花田医師をはじめ、複数の医師が講演を行い、各施設での取り組みを共有する貴重な機会となりました。

講演終了後は、リハビリテーション科の加藤理学療法

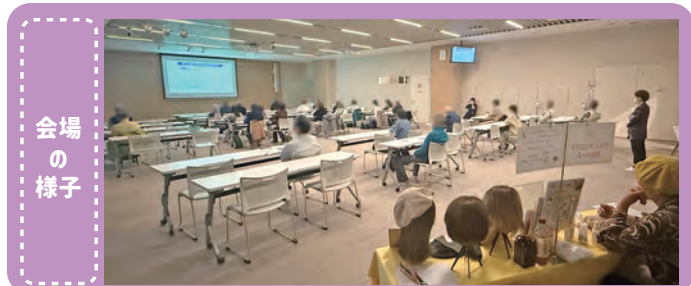
士による「ブレイク&リフレッシュタイム」が行われました。体力維持の重要性やフレイル予防につながる簡単なストレッチが紹介され、会場とオンライン参加者が一体となって体を動かし、リフレッシュしました。

後半は「持続可能な膵がん教室の発展」をテーマに、膵がん教室の役割や運営に関する講演が行われ、患者さんやご家族に寄り添う多職種連携の重要性が、改めて共有されました。最後は大川副院長のあいさつで閉会し、テーマソング「希望の光」が流れる中、温かい雰囲気の中で締められました。

今回の開催を通じて、膵がん診療と支援の大切さを多くの方々と共有する有意義な機会となりました。ご協力いただいた関係者の皆さま、そして参加者の皆さまに、心より感謝申し上げます。今後とも当センター膵がん教室へのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



膵がん診療の現状と最新の治療について、分かりやすくご講演いただきました。また、「膵がんの早期発見への取り組み」をテーマに、JA尾道総合病院の花田医師をはじめ、複数の医師が講演を行い、各施設での取り組みを共有する貴重な機会となりました。



会場の様子



オンライン画面

運営したメンバーの声

膵がんは自覚症状が出にくく、発見が難しい疾患であり、早期発見のためには定期的な検査や、地域で行える仕組みづくりが重要だと学びました。教室の企画を通じて、多職種で専門性を生かし支援する体制の大切さを実感しました。

(10階さくら病棟 看護師)

他院における膵がん診療の取り組みを知り、早期発見の難しさを改めて実感しました。今後も患者さんご家族の不安に寄り添い、治療の支えになれるよう努めたいと思います。膵がん教室の存在も多くの方に知っていただきたいです。

(10階なでしこ病棟 看護師)

膵がん教室に参加し、膵がんについての知識を深めることができました。患者さんやご家族がさまざまな思いを抱えて参加されていると実感しました。不安の軽減や安心につながる場として、今後もより良いものにしていきたいです。

(10階なでしこ病棟 看護師)

学会での発表・受賞のご紹介

文部科学省 学術変革領域研究
若手の会で全4賞を受賞研究所腫瘍増殖制御学部
中山 淳(左)・明果瑠-安岡 いるま(右)

文部科学省 学術変革領域研究 学術研究支援基盤形成 先端モデル動物支援プラットフォーム2025年度若手支援技術講習会において、4つの賞全てを受賞しました。



中山 研究員

研究題目: 休眠シグナルの解明と休眠誘導によるがん征圧

◆ ベストプレゼンター賞(口頭発表)

安岡 学振特別研究員

研究題目: 乳がん細胞休眠を制御する遺伝子ネットワークの解析

- ◆ ベストプレゼンター賞(ポスター)
- ◆ ベストプレゼンター賞(きっかり3分トーク)
- ◆ ベストディスカッサー賞

2025年度 日本胸部外科学会
【優秀論文賞】を受賞

呼吸器外科 馬庭 知弘



『Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Oct;72(10):684-689』で報告した「Metastatic pathways to the lower zone by segment in patients with clinical T1 lower lobe non-small cell lung cancer」が、2025年度胸部外科学会の優秀論文賞を受賞しました。

はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

【file 022】

「聞きたいこと、ちゃんと聞いていますか?」～質問促進リストのご紹介～

診察室で医師を前にすると、「聞きたいことがあったのに忘れてしまった」「こんなこと聞いていいのかな」と遠慮してしまった経験はありませんか?

そんなときに役立つのが ** 質問促進リスト (QPL: Question Prompt List)** です。これは、患者さんやご家族が診療の場で医師に聞きたいことを事前に整理し、安心して対話できるように支援するツールです。

例えば、がんと診断されたとき、

- ・「この治療の目的は何ですか?」
- ・「副作用にはどんなものがありますか?」
- ・「仕事は続けられますか?」
- ・「セカンドオピニオンを受けたいのですが」

こうした質問例を見ながら、ご自身が聞きたいことにチェックを入れたり、メモを加えたりして診察に臨むことができます。当センターでは初診の患者さんに、がん治療を選ぶ際に役立つ冊子「重要な面談にのぞまれる患

者さんとご家族へ」をお渡ししています。また、国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部のウェブサイトでは、がんの診断や治療で受診される方向けのさまざまな質問リストが公開されています。

「主治医」とはあなたのことを最もよく知る医師のことです。主治医に「聞きたいこと」を率直に聞くことが、納得できる治療選択につながります。

国立がん研究センター ウェブサイト

がん診療で医師に何を聞く?

診察で質問しづらい患者さんへ

(https://share-communication.jp/forpatient/)



♥がん相談ホットライン (情報提供・相談専用) ☎ 06-6945-1870

♥希少がんホットライン ☎ 06-6945-1177

電話対応時間: 月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く)
午前10時～午後4時

ご寄付について

寄付者ご芳名

2026年1月1日～2月28日

受領日順/ご希望者のみ掲載

吉田 裕稔様、古道 一樹様、大野 真弘様、銭屋 努様、落合 大希様、加藤 順子様、柏 之雄様、
岩井 政衛様、山本 麻依子様、川上 耕一様、廣瀬 善香様、村上 史郎様、井上 善雄様、
浅井 綾様、高山 富士夫様、岡本 守男様、向井 闘志様、森 孝行様、奥村 敏弘様、
吉村 浩一郎様、林 智洋様、前田 義隆様、程岡 幹之様、安達 晴子様 他 匿名者 29 名

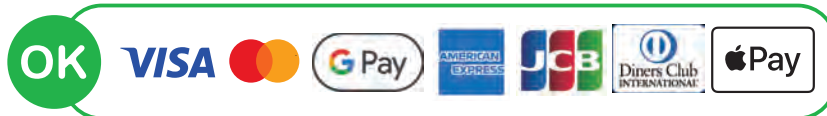
このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。
温かいお心遣いに感謝するとともに、ご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサー
ビスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。

●●●● Web サイトからのお手続きも可能です ●●●●

従来の申込方法に加え Web サイトからでもご寄付のお申込みを受け付けております。
クレジットカード、Google Pay、Apple Pay (1回あたり 100万円まで)、銀行振込
によりご寄付いただくことが可能です。



<https://oici.jp/center/effort/donation/donation-application/>

OICIだより 2026年春号 〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 経営改革グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2026年3月発行



病室(城側)からの眺望

ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



@oici.jp

ライン



<https://lin.ee/Z0cDHHu>

インスタグラム



@oici_1181



- ◆電車でご来院の場合
Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分/
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分
- ◆バスでご来院の場合
大阪シティバス「大阪城大手前駅」より徒歩約4分
- ◆お車でご来院の場合
東大阪線「法円坂出口」より約5分/東大阪線「森之宮出口」より約8分